学習院大学
国際交流センター
Centre for International Exchange
News Letter
vol. 11
April 1, 2003

留学体験
漱石と鴎外の場合

国際交流センター所長　塩谷清人

およそ百年前の夏目漱石の留学(1900)、さらにその16年前の森鴎外の留学(1884)をここで書くのは時代錯誤と思われるかもしれない。飛行機のない時代だからかれらは横浜から船に乗って45日ほどの船旅をし、それぞれジェノヴァ、マルセイユに上陸し、さらに鉄道などを乗り継いでそれぞれの目的地、倫敦と伯林に着いた。あえて当て字の漢字を使ったのもその時代性を明確にするためではある。しかしわたしが書きたいことは現代との違いもさることながら、両者の留学体験が現在のわれわれに教示する点である。

漱石がロンドンで苦闘した話は有名であるが、その理由の一端に、留学目的が官命のそれと自身のそれと違うことがあった。文部省は彼に英語研究を命じていたが、漱石は英文学研究を希望していた。その相違が彼を悩ませた。さらに日本人が英文学研究をすることの意味で悩んだ。苦悩の末に結実した作品が『文学論』や『文学評論』である。結果的には以後の英文学研究に大いに貢献することになったから喜ぶべきことだが、別の見方をすれば、漱石は余計な苦悩をしている。

留学を国家的な意義として深刻に考えさせる外圧が漱石にかかっていた。これはこの時代のエリートにかかる重圧である。もし彼が自由な立場に置かれていたら、もっとロンドン滞在を楽しみ、文学研究も違った結果を生み出していただろう。個人的体験として留学を考える余地があれば漱石も楽しかったであろう。

「倫敦に住み暮らしたる二年は尤(もっと)も不愉快の二年なり」と書いている。漱石は英語が堪能であったから、言葉での悩みはさほどなかったが、異文化ギャップは今以上にあり、さらに下宿のひどい食事に閉口した。鴎外の留学時とは違って、為替レートの関係で円が半分の価値しかなく、金銭的余裕もなかった。ひたすら洋書を買って生活費を切り詰めた。

鴎外は医者である。彼はエリート軍医としてライプチッヒやベルリンで研究した。上官からやりたくない脚気や衛生学などの研究を命じられたが、それをいい加減に聞き過ごす余裕があった。留学目的で多少自身の意図に反することはあってもそれで深く思い悩むことはなかった。ドイツ語は流暢だったことも手伝って、かなり気ままな留学生活をした。それは「エリス」という女性との恋愛や『舞姫』という作品に表れている。ついにその女性が日本まで追いかけてくるというエピソードまで付け加わる。鴎外は留学を楽しんだから、その延長を願った。

両者の気質の違いはあるが、文学者と医者という職業的な違いは決定的である。文学の持つ曖昧性は漱石の場合、悩みを深くさせることであったことは確かである。

できるだけ若いときに留学するのがいいといわれる。漱石は留学当時33歳で結婚していたこともマイナスに働いたかもしれない。鴎外は22歳で独身だった。

留学体験記

復旦大学・毛沢東像前にて▲

上海に来てはや半年。

平成14年度復旦大学派遣学生
文学部史学科４年
林　清市

こちらに来てはや半年が過ぎようとしています。自分でも実感できるほど自分自身の成長を実感しています。それほど海外で生活するということは大きく価値観を広げることが出来るチャンスだと思います。

中国について多くの人はどのような印象、実感を持っているのでしょうか？いま日本では中国に対する興味が深まっているように感じます。テレビではたびたび取り上げられ、書店に行けば中国に関する多くの書籍がずらりと並んでいるのを目にします。しかし、私の友達などからよく聞く言葉は、「よくわからない」「想像がつかない」といった言葉が多いように思われます。それくらいまだまだ中国は近くて遠い存在なのかもしれません。そんな中国・上海で私が体験したことを少し書いてみたいと思います。

私がいる上海は中国の中で最も大きな経済成長を続けている都市です。市内の中心部には多くの高いビルが乱立し、はじめて来た人だけでなく、半年間ここで生活している私でさえもつい見とれてしまうほどです。その反面まだまだ多くの1900年代前半の町並みもいたるところに残っており、経済発展だけを強調するだけの都市ではありません。また通っている復旦大学は中心部から少しはなれたところにあります。ここではヨーロッパ、アフリカ、南米、北米、東南アジア、東アジア、ロシア地域…といったいろいろな国から来た留学生が勉強しています。そのため中国だけでなく多くの国々のことを知ることができるとてもよい機会も得ています。日本にいたころには考えられないほどの国際化が私の中で広がっています。

はじめここ上海に来たばかりの頃は多くのことに戸惑いを感じ、日本との文化や価値観の違いに衝撃を受けたものです。例えば交通。中国に来た誰もが驚きを感じずにはいられないものの一つです。道路では日本にいる感覚で歩いていると必ず事故にあってしまうのではないか、と思われるほどです。中国の人たちは信号のない大きな道路でも平気で渡ってしまいます。車の行きかう片側3車線の道路の真ん中に人がぽつんと立っている、などということはあたりまえの光景です。一般市民の交通の足であるバスや地下鉄の乗り降りには、人をかき分けかき分け多くのパワーを必要とします。このよく言えば活気、悪く言えばマナーの悪さに本当についていけるか、慣れるのか、不安を感じずにはいられませんでしたが、今では何の違和感も無く、生活の中の単なる一部分としてすごせるまでになっています。

あとはなんといっても春節でしょう。こちらのお正月は旧暦で行っているため１月31日が日本で言う大晦日に当たります。そのため12月31日、1月１日はほとんどいつもの日常と変わらないのですが、1月31日は本当にすさまじいです。日本の年越しといえば、紅白などのテレビを見て、その後は静かに年越しを迎える、というのが一般的でしょう。中国も日本の紅白のようなものにあたる『春節晩会』というテレビ番組を見ながら年越しを待ちます。しかし、ここからが大きく違うところで、年越しを迎えるにあたって中国は爆竹、花火がいたる所で放たれます。特に夜中の12時前後にかけては言葉では簡単になってしまいますが『すごい』の一言につきる凄さです。爆竹は2メートルくらいの長さのものが、花火はダンボウル箱いっぱいに詰められた連続打ち上げ花火が、いっせいにいたる所で放たれます。外に出るのも面倒くさいのか、マンションのベランダから爆竹をぶら下げ点火するなどといった光景もあたりまえのように見られます。この時間帯は外が爆竹、花火の煙でかすんでしまうのです！！この光景は一生忘れられません。

いま書いた事柄は体験した一部にしか過ぎませんし、まだまだ新しい体験がこれからも経験できるはずです。今後も、もっと積極的にいろいろなものを吸収していきたいと思います。

ナポリで道を渡ること。

平成14年度国立ナポリ東洋大学派遣学生
文学部日本語日本文学科４年
小森　風美

Napoliに着いてまず始めに覚えなくてはならないのは、「道を渡ること」。

ナポリの人は朝起きたらまず一番にカフェを飲んで、シャワーを浴びて、ゆっくりゆっくりしてから出掛ける。朝寝坊も珍しくない。それが通勤や通学のために車・バイクに乗った瞬間に人格が変わり、「レース」が始まる。

出勤が10時という人でも、我さきにとにかく誰よりも早く道を抜け出そうとする。そうナポリ人が言っていた。

外国人である私に対し、自分たちのキャラクターを面白おかしく語った分を差引しても、確かにナポリでは交通法規というものが存在しないように見える。誰も信号を守らない。赤だろうが青だろうが隙を窺うようにして渡るのを試みなければならない。でないと待っているのはいつまでも渡れない間抜けか、それとも交通ルールを信じて事故に遭う、これまた正直者という輝かしい称号で呼ばれるだけ。

だからといって、みんながみんな自分のことしか考えてないからこういう風に機能しているわけじゃなくって、例えばこちらが赤信号で横断していて向うから車が来たとすると、ちょっと速度をゆるめてこちらが渡り終るのを待ってくれたりする。車側から見れば青信号なのだから進んでいいはずなのに、クラクションも鳴らさない。皆が皆止まるわけではないけど、そう珍しいことでもない。

驚いた。だって日本だったら「赤信号が見えないのかっ、バカヤロー!!」と最後の一言があるかどうかは人によるとして、それでも赤信号を渡った方に非があるのに、Napoliでは「お互い様だから」との気持ちで動いているものがある。

人をだますのも、だまされる方が油断したから。自分も油断したらだまされることだってあるかもしれない、そしたらそれはそれ、油断したからだまされたんだ。「ま、お互い様でしょ」、みたいな…。

Napoliの道は汚い。ゴミが道に溢れている。何でゴミ箱に捨てないのか分からない。とにかく道に捨てる。Napoliだけじゃなく、Bolognaでもどこでも、人はよくゴミをポイ捨てする。だけどNapoliではそれが組織的に(?)行なわれている。或る決まった一角（「一角」というほど狭い範囲ではない。「ゾーン」と言った方が的確か）にゴミが散らばっている。その後誰が掃除するのか見たことはない。だけど翌朝通るとキレイになっているのだから、誰かしら掃除しているのだろう。

イタリアは南北経済格差が深刻なことで有名。ナポリの人は、「政府が仕事をくれないから人をだましたり、法律の目をかいくぐって日々の生活を確保してるんだ」と言うけど、同時に「ナポリ人が法を守らないから政府は仕事を与えない」とも言う。それが堂々巡りの論理だってこと、政府もナポリの人も気がついているのかしら。

Napoliと政府が歩調を合わせるのには、まだまだ時間がかかるようです。

国際交流ヴォランティア体験記

国際交流センターでは、ボランティアの学生さんを募り、センターの交流活動のお手伝いをしていただいています。どんな活動をしているのか興味のある皆さんに、体験談をお届けします。

経済学部経済学科４年　中島　貫

前列中央が中島君▲

僕は昨年度の国際交流ヴォランティアに参加しました。今回はその活動の一部をご紹介します。

【国際交流パーティー】

大学の国際交流イヴェントで、恐らく最も規模が大きいのが、春と冬に行われるパーティーです。学習院に来ている留学生や、先生方を招待し、交流を深めて頂きます。僕は春のパーティーをお手伝いしたので、そちらの体験をご紹介します。

ヴォランティアの仕事は、３回の事前ミーティングから始まります。事前ミーティングでは、パーティーで行うゲーム等の企画から準備までを話し合います。ここではアイデアをどんどん出せる人が求められます。奇抜なアイデアや派手なアイデアである必要はないので、とりあえず発言することが大切です。僕はカエルの折り紙の折り方を伝授しました。

こうやって、パーティーのネタを決めたら、いよいよパーティー当日になります！パーティーはさくらラウンジで行われたのですが、留学生が一堂に集うので、日常ではなかなか味わえない空気を吸うことになります。アジアからの留学生が多数を占めますが、いろいろな人種・宗教の人々がいます。留学生達とは原則、日本語で会話することになっています。その方が、留学生の日本語の勉強になるからです。という話があったにも関わらず、会場ではあらゆる言語が飛び交っていたような気がしますが…（汗）。僕のような、日本語オンリーの人間でも、ヴォランティアをする上では問題ないので、語学の心配をする必要は全くありません。

パーティーでは、どんどん留学生と会話して、ゲームをし、国際交流を楽しみます。チーム対抗で、箸を使った豆移しリレーとジェスチャー伝言ゲームをしましたが、どちらも予想を上回る盛り上がりでした！　僕のチームは総合２位に入賞して、記念品をＧＥＴ♪　とても楽しい時間を過ごせました。ただ忘れてはいけないことは、自分達はヴォランティアとしてこの場に居させてもらっているということ。何かお手伝いできることはないか、自分で考えて主体的に行動する姿勢が大切です。できる範囲でいいと思います。僕はカメラの操作方法を誤って、何枚か写真が撮れていなかったというミスをしてしまいました。安請け合いはよくないですね。

宴もたけなわになった頃に、終了の時間になってしまいました。片付けのお手伝いも、大切な仕事です。仲良くなった人たちとの会話は、その後にとっておきます。ヴォランティアをしていなければ出会えなかった、すてきな人たちと知り合えました。正味２時間ほどのパーティーでしたが、この２時間は、僕の大学生活の中でも非常に楽しい２時間になりました。金銭以上に貴重な経験を、ヴォランティア活動を通して得られたと思います。

本学では毎年１０名前後の協定留学生を受け入れています。この春１年間の協定留学を終えて帰国したラーラさんの「協定留学終了報告書」をご紹介します。本学で過ごした１年間は、一体どんなものだったのでしょうか？

Lara Welfield

（平成 14 年度オーストラリア国立大学からの協定留学生）

この限られたスペースで、ここ一年間の感想をまとめて書くことはとても難しいけど、とにかく簡単に言うと、本当に素晴らしい留学体験でした。日本語の上達はもちろんのこと、様々な意味でこの留学の一年は良い勉強になりました。学習院の日本人学生とも、そうでない色々なバックグラウンドの日本人とも出会うことができ、又、中国や韓国からの学生を中心に沢山の留学生とも友達になり、色んな話を聞いたり、一緒に遊んだり、勉強したり、と本当に良かったと思っています。子供の頃にも日本で生活をしたことがありますが、今回の留学で様々な新しい発見があったり、初めて感じた事、気付いた事、思った事など、自分の中でも新しい考え方が生まれたり、変わったりと、色んな意味で成長でき、少し大人になれたのではないかと思います。又、オーストラリアを今までとは違った観点から見直すこともでき、オーストラリアに住んでいる時には気付きもしなかったこと等が沢山見える様になった気がします。そして、帰ってから又、さらに色々と気付けるのではないかと思っています。

最初は恐る恐るでしたが、レイメイの廊下をアンドリュー（ＡＮＵからの協定留学生）と歩き、緊張しながらも探検部に入った思い出が印象的です。そこでは、沢山のアウトドア活動を楽しみ、日本各地をテントとレンタカーで旅行しただけでなく、日本的な部活というものに触れることができ、何人ものいい友達に出会えたことが一番の思い出です。……トレーニングはちょっと大変だったけれど……！

その他にも、相撲に連れていってもらったり、バス旅行で日光に行ったりと、沢山の楽しい企画で良い思い出ができました。他にも書きたいことは山ほどありますが……。

この一年間本当に色々とありがとうございました。

（原文のまま）

学習院大学海外留学奨学金について

本学では、留学費用を援助し、できるだけ多くの皆さんが留学のチャンスを得ることができるように、上記奨学金制度を設けています。平成15年度第２回目の募集については、４月下旬に国際交流センターで配付する募集要項をご覧下さい。

応募条件：「留学願」により許可された留学であること。
募集人数：９名
奨学金額：１人 50万円（給付）
応募締切：６月中旬の予定

平成14年度は右の皆さんが奨学生に選ばれています。

独研Ｄ３年	石崎　朝子	（独）
法研Ｍ２年	由井　一成	（加）
哲学科４年	水谷　昌子	（伊）
英文学科４年	金子　泰子	（英）
仏文学科４年	石井　詩香	（米）
独文学科４年	服部　貴絵	（独）
法学科４年	佐藤　ゆりあ	（英）
政治学科４年	松島　理絵	（英）
史学科４年	林　清市	（中国）
英文学科４年	関　敬子	（英）
英文学科４年	益永　絵理	（豪）
英文学科４年	森島　麻樹子	（米）

（　）内は留学先

【　大学院学生の国外における研究発表援助について　】

本学では大学院学生の研究活動支援の一環として、海外で研究発表を行う学生に対し、10万円を限度に、費用の一部を援助する制度を設けています。平成14年度は下記の通り援助を行いました。平成15年度の募集については、４月下旬に国際交流センターで配付する募集要項をご覧下さい。

平成14年度大学院学生国外研究発表援助採用者（15名）

政治・政治	博士後期	萩原　豪	
経済・経済	博士前期	西川　友美子	
	博士後期	深津　亜実	
人文・哲学	博士後期	近藤　僚子	
日文	博士後期	黒﨑　典子・柳　慧政・李　頴・魏　聖銓	
自然・物理	博士前期	立花　隆行	
	博士後期	鷹野　芳樹・千葉　亮・山田　豊和・戸坂　亜希	
化学	博士前期	深澤　陽子	
数学	博士後期	簗場　広子	

【　国際交流センターボランティア募集および登録更新　】

国際交流センターでは、センター主催のイベント（留学生懇親会やバス旅行など）の企画・運営のお手伝い、留学生の相談相手、短期ホストファミリーなどのボランティアを随時募集しています。興味のある方は、国際交流センターまで来室の上、登録手続きをしてください。

また、現在ボランティアとして登録している学生の皆さんで、引き続きボランティアを引き受けてくださる方は、国際交流センターで登録更新の手続きをとってください。

国際交流センターからのお知らせ

■国際交流センターホームページのご案内

国際交流センターからの各種募集案内や主催行事および閉室等のお知らせは、ホームページを通じてお伝えしています。留学や国際交流に興味のある学生さん、また外国人留学生の皆さん、ぜひ定期的にアクセスしてみてください。

アドレスは
http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/index.htmlです。

■国際交流センター移転予定について

国際交流センターは今年８月、西５号館４階の就職部跡に移転する予定です。教務課や学生部の隣になりますので、利用する学生さんにとっては、ますます便利になることでしょう。新しい国際交流センターにご期待ください。

■ニューズレターについて

ニューズレターは、年２回、４月および10月に発行しています。留学に関する情報や外国人留学生の皆さんの紹介など、国際交流に関する記事を満載してお届けしています。掲載内容についてのご意見やご要望をぜひ国際交流センターまでお聞かせください。

News Letter vol. 11

April 1, 2003

発行日／2003年４月１日
編集・発行／学習院大学国際交流センター

〒171-8588　東京都豊島区目白1-5-1
TEL.03-5992-1024　FAX.03-5992-1025
http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/index.html

●編集後記●　今年４月、国際交流センターの所長が、湯沢威教授から塩谷清人教授にバトンタッチされました。２期６年間の長い間ありがとうございました。５年前、５名の派遣学生で始まった協定留学プログラムは、現在では14名を派遣するまでになりました。３名前後だった協定留学生も、この４月には11名が在籍しています。運営委員の先生方も４月に半数が交代され、８月には事務室も移転する予定です。新しい国際交流センターにどうぞご期待ください。

[平成15年度国際交流センター運営委員]
所　　長……塩谷　清人　（文学部）
運営委員……井上　寿一　（法学部）
BROWN, Phillip　（経済学部・外国語教育研究センター）
長嶋　善郎　（文学部）
芳賀　達也　（理学部）
有川　治男　（教務部長・文学部）
遠藤　久夫　（学生部長・経済学部）